

住民の徹底抗戦で、再び執行中止

宇治市開浄水場休止・府営水への切り替え



水道部の休止執行の通告に対し、断固阻止と対峙する住民ら

市、裁判所の仮処分決定待つ方向

午前2時半すぎ、執行困難と判断

宇治市水道部は、開浄水場（神明宮北65）の休止・府営水への給水切り替えのため、22日午前零時前に職員約25人を動員して現地に入ったが、「切り替え断固阻止」を掲げる開地区自治連合会（俊正和寛会長）などの住民約100人が車両7台が現地に到着するや「職員は今すぐに帰れ」のシュプレヒコールと、公園内で切り替えを通告しようとした幹部職員を取り囲むかたちで約20人の住民が対峙した。住民らの怒号が飛び交う中、騒然となり、強行執行すれば不測の事態を招くと判断。30分後の午前零時半に現地を引き揚げた。待機して弁を切り替える機会を伺ったが、徹夜態勢で警戒にあたる住民の姿が減らず、切り替えタイムリミットの近づいた午前2時半過ぎ、市は執行中止を住民に伝えた。

現地での指揮にあたった市水道部の小西吉治水道部長は22日午後、改めての執行着手の可能性について「現時点では決まったものでないが」と断った上で、当面の執行は難しいと

判断を示した。16日に住民313人が休止差し止め請求と仮処分を申し立てており、月内の31日に仮処分決定に向けた審理が地裁でスタートする。2月中に処分決定が下

りる見通しもあり、裁判所の判断を待つて、対応する可能性が高い。市は昨年6月にも同様の執行に着手したが、住民の徹底抗戦で話し合いを継続しながら、執行をこの日まで先送ってきた経過がある。市としては、今回で2度の執行失敗を繰り返す結果となっており、今後再々度の休止執行を試みても、反対住民の姿勢に変化が生れる可能性はなく、裁判所の決定に住民側も委ねる姿勢を示していることから、その判断を待つものと見られる。

市の執行着手に対して、約100人の住民が深夜の3時過ぎまで、数ヶ所に分散して路上で警戒態勢を取った。高齢者の姿も目立った。「裁判の途中で、道理

ある指摘をしているのになぜ、無理を通すのか」「仮処分決定を待つのが筋」「市としてもっと柔軟性をもった対応があるはずだ」「私に口汚い言葉をこれ以上吐かすな」などと、水道部職員らに

激しい口調で詰め寄った。これに対して、小西水道部長が「これ以上は、軋轢を生む可能性があるので帰るが、こちらの対応は正しい」などと言った。約30分あまりのやり取りで現地から引き返した。住民らは、今一度、水道部の現地執行がこの日にあるのではないかと警戒。午前2時ごろまで待ったが、苛立ちも募り、住民代表数人が水道部庁舎を訪れ、同部長に執行の中止を確認した。

3時すぎから地域福祉センターで70〜80人の住民が集まって報告集会を開き、俊正会長が「民主主義には時間がかかる。こうした試験を乗り越えないと事は成し遂げられない。市長は3月中旬に開浄水場の息の根を止める気ではない。3たび執行されても、迎え撃つ決意を持つ」となどと話し、散会した。